

INDIRECT関数 使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

INDIRECT関数の基本をおさらい

INDIRECT関数の基本をおさらい

INDIRECT関数は、「文字列」を「本物のセル番地（参照）」に変える関数です。まずは、基本の構文と、その「仕組み」を理解しましょう。

=INDIRECT(参照文字列, [参照形式])

引数	内容
① 参照文字列	"A1" や "シート1!B2" といった「セル番地を表す文字列」を指定します。
② 参照形式	TRUE (A1形式) または FALSE (R1C1形式)。省略すると TRUE (A1形式) になります。実務ではほぼ省略 (TRUE) でOKです。

～例: INDIRECT関数の仕組み～

- ・A1セルに、B1 という「文字列」が入力されている
- ・B1セルに、100 という「数値」が入力されている

この時、=INDIRECT(A1) という数式は、以下の順で処理されます。

- ① A1 を見に行く → B1 という「文字列」を取得
- ② INDIRECT関数が、"B1" (文字列) を B1 (セル参照) に変換
- ③ B1 セルの値である 100 を表示する

マスターの鍵は & (アンド) にあり

マスターの鍵は & (アンド) にあり

INDIRECT関数の真価は、& (アンド記号) を使って「参照文字列」を動的に組み立てることで発揮されます。

例: A1セルの値(例: "B10")を参照したい場合

- `=INDIRECT("B10")` → B10セルしか参照できない(静的)
- `=INDIRECT(A1)` → A1セルの値("B10")を参照する(動的)

例: A1セルの値(例: "4月")のシートを参照したい場合

- `=INDIRECT("'" & "4月" & "!A1")` → 「4月」シートしか参照できない(静的)
- `=INDIRECT("'" & A1 & "!A1")` → A1セルの値("4月")のシートを参照する(動的)

& を使うと、A1セルの値を "5月" に変えるだけで、数式が自動的に「 5月」シートを参照するようになります。

【実践例①】 月ごと・支店ごとのシートを集計する

【実践例①】 月ごと・支店ごとのシートを集計する

INDIRECT関数の最も強力な使い方が「シート参照の自動化」です。

シナリオ：「4月」「5月」「6月」という名前のシート（すべて同じレイアウト）がある。

集計シートのA2セルに"4月"と入力したら、B2セルに"4月"シートのC5セルの売上を表示したい。

数式（集計シートのB2セルに入力）：`=INDIRECT("'" & A2 & "'!C5")`

解説：

- A2 には "4月" が入っています。
- 数式は `"'" + "4月" + "'!C5"` という文字列を組み立てます。
- 結果として `"4月!C5"` という文字列が完成します。
- `INDIRECT`関数が、この文字列を「"4月"シートのC5セル」という参照に変換します。
- A2セルの値を"5月"に書き換えるだけで、B2セルは自動的に"5月"シートのC5セルを参照します。

【Point💡】 `"' & A2 & '"` のように `"` (シングルクォーテーション) で囲むのは、シート名にスペースやカッコが含まれていてもエラーを防ぐためのベストプラクティスです。

【実践例②】

他の関数と組み合わせて「神」関数にする

【実践例②】他の関数と組み合わせて「神」関数にする

INDIRECTは、他の関数と組み合わせることで、参照する「範囲」すらも動的にできます。

組み合わせ	内容と数式例
VLOOKUP + INDIRECT	検索する「マスタ表」を切り替える 例：A1セルの値（"商品マスタ" or "顧客マスタ"）によって、VLOOKUPの参照範囲を切り替えたい。 <code>=VLOOKUP(B1, INDIRECT("'" & A1 & "'!A:C"), 2, FALSE)</code>
SUM + INDIRECT	集計する「対象」を切り替える 例：A1セルに"東京"、A2セルに"大阪"と入力。参照するシート名をセルで指定したい。 <code>=SUM(INDIRECT("'" & A1 & "'!C:C")) + SUM(INDIRECT("'" & A2 & "'!C:C"))</code>
IFERROR + INDIRECT	エラー処理 例：参照先のシート名が存在しない場合に #REF! エラーが出るのを防ぎ、「該当なし」と表示したい。 <code>=IFERROR(INDIRECT("'" & A2 & "'!C5"), "該当なし")</code>

【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。